

ロハスパッカーズ通信

定期報告 12 月 2 回目 ボリビア、ウユニ塩湖—天国はこの世界にあった。—

文責：有村拓朗



皆様は「死ぬまでに絶対ここに行きたい！」っていうところがありますでしょうか。私は今から4年前、友人に「なあ、ウユニって知ってる？」と聞かれ、何気なくパソコンで検索バーに「uyuni」と入力し、画像を一目みたときからウユニに恋をし、死ぬまでに絶対ここに行く決めました。会社を辞めることになり、中米～中南米を旅することになった私に、そのチャンスは意外とすぐに訪れました。3人で旅を始めたばかりでしたが、このためだけにメキシコから一人でペルーに飛び、リマ→アレキパ→プーノ→ラパス→ウユニと全工程40時間弱の道程を2日で駆け抜けました。どの町にも目もくれず向かったウユニが、私に見せてくれた光景は自分の想像をはるかに超える景色でした。



くるぶしまで溜まった水が、さざ波一つなく透明なベールのように純白の塩の湖を覆い、それが太陽の光を反射し、湖面に上下完全対称の景色を映し出していました。「うわー!」「すごええ!」という言葉しか出てきませんでした。が、それくらい、この景色は形容しがたいものでした。見たこともないくらい美しい青色と、純白の白とのコントラスト。ヨセミテの国立公園でみたセコイアの樹の大きさ、ナイアガラの滝、雄大なグランドキャニオンなど、自然の美しさを体験してきましたが、これほどの衝撃はありませんでした。きっと、きっと、天国なるものがあるのなら、このような景色で出迎えてほしい。そう思いながら、目でみるだけではもったいなくて、シャッターを切り続けました。気がつけば日は瞬く間に落ち、夜のウユニがその姿をあらわしました。



世界中の星をこの地にかき集めたかのように、目で見れる範囲に敷き詰められた星、星、星。真っ黒のキャンバスに、気が狂ったようにスパッタリングされた天の川のコントラストを眺めながら、あろうことか私は泣いていました。見たかった景色のすべてがここにある。本当にきてよかった。このまま見続けたら自分も夜空に溶け込んでいけるのではないかと思うほど、その日は太陽が再び顔を出すまで、寒さも忘れて見入っていました。(翌日首に痛みがあったことは言うまでもありません。。)

このウユニ塩湖の絶景は、毎年 **12月～3月上旬** ころまで見ることができます。今年も雨季に入ったようですので、順調にいけば、**3月上旬** までは体感できるはずです。もしも言葉を失うほどの景色を見たことがないのであれば、ウユニに行かれてみてはいかがでしょうか。きっと、忘れられない体験になりますよ！